

くすっ子



鴻巣市立屈巢小学校
学校だより
令和4年12月1日

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

くすっ子の未来を想う～ロールモデル・キャリアモデルとの出会い～

校長 諏訪 けん

11月8日に全校児童で植えたパンジーやビオラの花や葉が増えて元気に育っています。

11月は、学校（学年）行事が多くあり、子ども達にとっての行事の意義を改めて感じ、その必要性を再認識しました。その中でも、おやじの会主催の「秋祭り」やクレアこうのすでの音楽会（5・6年生が出演）、2年生の町たんけん（お店の見学）や4年生の福祉ボランティア体験、3年生がお世話になった県央広域消防本部の見学では、くすっ子のロールモデル※1または、キャリアモデル※2となり得る方々との出会いがありました。貴重な機会としていただいたことに、深く感謝申し上げます。

※1 ロールモデルとは、自分にとって具体的な行動や考え方の模範となる人物のこと。

※2 キャリアモデルとは、あこがれの先輩モデル。伝記に載るような偉人もあれば、身近な父母・親戚・地域のOBOG・学校や職場の先輩など。

具体的には、次の方々です。

○秋祭りでの、キャンプファイヤーや花火・きもだめしの会場づくりをしたり、射的や水風船釣りなど、遊びの場を運営したりしてくださった**屈巢小のOB・OGや保護者の方**

○5・6年生が出演したクレアでの音楽会での、**同じ会に発表した中学生**

○町たんけんでの、2年生の子ども達にお仕事のお話をしてくださった**お店の方々**

○福祉ボランティア体験での、盲導犬や盲導犬利用者のことや聴覚に障がいがある方や手話の理解促進のために活動している方々、点字本などの点訳活動をされている方々（**各ボランティアの方々**）

○県央広域消防本部で、3年生にお仕事のお話をしてくださったり、校歌を歌ってくださったりした**屈巢小卒業生の隊員の方**

目的は別にありましたが、そこで出会った方々の「人となり」（生まれつきの人柄・備わっている性質や言動）が、無



意識のうちに児童にとってのモデルとなり、もしかすると、児童の中に「自分も屈巢小の祭りを盛り上げたい」とか、「自分も点字や手話ができるようになって、手助けがしたい」とか、「自分もああいいう仕事がしたい」と児童が思い、それをめざす努力を始める可能性をどの機会も秘めたものでした。このように、行事等における学校外の様々な方との出会いは、くすっ子の未来を形成する可能性があり、とても価値あることと再認識できました。

私にもロールモデルとなる人がいて、今の自分が成り立っていると思っています。その方は、「姿が姿をつくる。自らあるべき姿を示せ。」と時々、口にされていました。しかしながら、今の自分は果たして誰かのロールモデルとなれているのだろうかかと自問自答しています。先に生まれた者として、よきロールモデルとなれるよう日々研鑽しなければいけない、という思いをもって12月を迎えました。